

理事長 殿

2019年度 特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	一般科目	職	准教授	氏名	福永 堅吾
研究分担者	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
研究課題名	(和文) 文化交流のあり方の一考察－堀口捨己の初期作品における洋と和の融合をモデルとして (英文) A Study of a Cross-Cultural Model: Focusing on Sutemi Horiguchi's Early Architectural Works					
研究種目	重点課題研究					
研究実績の概要						
<p>2019年度は、堀口捨己の初期作品を考察を深めるために、彼の代表的な著作集の精読を進めた。堀口捨己『建築論叢』（1978）、堀口の代表的な先行研究である藤岡保『表現者・堀口捨己』（2009）、および1920年代から30年代に世界的に流行した「インターナショナル・スタイル」に関する先行研究などの購読を中心に進めた。得られた知見とそれにまつわる論考を目下まとめつつあり、近い将来にしかるべき媒体で公表する予定である。なお、当初の計画では長期休暇中に明治大学での資料調査を予定していたが、校務のため時間調整がつかず、計画を変更して、文献の調査を中心に進めることとした。</p> <p>また、本研究と並行して、堀口の青年期に影響を与えたと考えられるドイツの建築家ヴァルター・グロピウスの業績の関する研究を進めた。テーマとしてはニューヨーク近代美術館（MoMA）にて開催された「Modern Architecture: International Exhibition」（1932）取り上げた。先述の「インターナショナル・スタイル」について世界的に知らしめた、近代建築界にも大きな影響を与えた展覧会であり、グロピウスがアメリカで広く認知される契機となったもので、さらにはグロピウスがバウハウスの校長を辞職したのち、アメリカを活動の拠点として見出すに至った展覧会でもある。2017年に口頭発表した成果をもとに、今回得られた情報を加えた形で論文にまとめ、本校の『研究紀要』において発信することができた。</p>						
研究発表（論文、著書、講演等）						
(1)福永堅吾「文法指導を目的とするライティング活動で大切なことは何か」『語研ジャーナル』第18号、(一財)語学教育研究所、2019年、pp.93-102 (2)福永堅吾「ヴァルター・グロピウスの『インターナショナル・スタイル』的側面についての考察」『研究紀要』第14号、東京都立産業技術高等専門学校、2020年、pp.11-14						
その他（教育活動・OPCへの貢献、特許等）						
■社会貢献等 日英言語文化学会、運営委員（紀要委員） 語学教育研究所、研究員・出版部、『語研ジャーナル』編集担当 出前授業講師（世田谷区立玉川中学校、2019年12月13日）						